

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年 7月26日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4672300078
法人名	医療法人 孝仁会
事業所名	グループホーム フレンドリーハウスのぎく
所在地	南さつま市笠沙町赤生木11372-397 (電話) 0993-63-1210
自己評価作成日	平成22年5月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kagoshima-kaigonet.com/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4672300078&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成22年6月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・買い物や散歩など、外に出る機会をほぼ毎日作り、地域の方々と触れ合う機会を作るよう心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者のかわいがっているアニマルセラピーを意識した犬のいるホームの庭は草木や季節の花がうえられており、季節感や生活感のある親しみのもてる雰囲気がある。食堂からは入居者の和気藹々とした話し声が聞こえてくる。母体である老人保健施設の医師や看護師、介護職員と24時間連携がとれ、本人や家族の安心につながっている。

○役割、楽しみごとの支援

アニマルセラピーを意識したペットの飼育や食事のお箸やコップの自己管理は入居者の残存能力の向上につながっており、管理者、職員は入居者が笑顔で過ごすことができる穏やかで楽しい生活を何より大切にしており、入居者の笑顔はとても自然で穏やかに明るく普段の関係づくりが極めて良好である。

○職員を育てる取り組み

母体である老人保健施設と連携して、研修、勉強会が定期的に行われ、管理者は職員の悩み相談に意欲的に取り組み職員のモチベーションの向上につながり、職員の質の高さになっている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	職員全員で地域密着型は何かを考え理念に活かし、共有している。	理念には「地域の方々と共に暮らし」などの言葉を含み、地域に根ざしたサービスを意識できる内容を職員で話し合っている。理念を掲示するとともに、職員は理念を暗記し、ミーティングで具体的に話し合うなどして、よりよい介護に結びつけている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物や散歩、散髪など利用者の方々が昔利用していた場所に行くように心がけ、地域の方々と触れ合う機会を作っている。	散歩で出会う地域の方へのあいさつや声かけなどにより関係づくりに力を入れている。地域住民や保育園、学校等との交流会やボランティアの受け入れ、苗や野菜の差し入れをいただくなど日常的に交流が行われている。	
3	0	○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	散歩や買い物などを通じ、地域の方々とよく会話をし、認知症の方々の理解を得ている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、その場にて施設で取り組んできたことの報告や今後取り組む予定の事など話し合い、サービス向上に努めている。	2ヶ月に1回開催され、事業所行事等の報告のみではなく、出席者の意見や助言などがあり、有意義な会になっていることが議事録より確認できる。また、前回の外部評価の結果や外食についての提案についても話し合わせサービス向上につなげられている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議を通じ、今後協力してほしいことや現在取り組んでいることを伝え、協力関係を築いている。	定期的に市担当窓口や福祉事務所などへ広報誌配布や事務手続きで出向いたり、その他の機会に訪問した際、事故報告や認定手続き、問題事例の相談など情報交換を行い、協働してサービスの質の向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	夜間以外は一切施錠は行っておらず、自由に外に出れる環境を作っている。散歩や買い物なども希望があれば、その日のうちに行えるよう支援している。	マニュアルを作成し身体拘束委員会を開催し、研修を行っている。玄関をはじめ各居室に鍵をかけない自由な暮らしの支援を職員の努力で実現している。職員は常に利用者の状態を把握し、地域の方に入居者の顔を覚えていたり、外出されるときにはさりげなくついて出たり、工夫して見守りを行っている。	
7	0	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員会議を通じ虐待防止について学び、注意・防止に努めている。		
8	0	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	運営推進会議や職員会議を通じて話し合い、個々で必要のある場合活用できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9	0	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者・家族の方々には、不安なことや疑問に思われていることをその都度尋ねながら十分に説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者・家族の方々とは、面会時や、日ごろからの会話を通じ意見・要望などを聞くように心がけている。また第3者の窓口もあり、そちらでも意見・要望が伝えられることを説明している。	重要事項説明書に相談窓口を記載し職員が苦情・要望などを把握した時には苦情処理受付簿や申し送り簿で他の職員と情報を共有し、必要な場合は職員会議で話し合い、本人や家族に報告するなど速やかな解決を図っている。しかし、定期的な家族会の開催や第三者委員の任命等の確認ができなかった。	定期的に家族会を開催することや苦情処理の第三者委員を任命することが望まれることを提案し、次のステップとして前向きに取り組みたい意向である。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	何でも書いていい、申し送りノートを作っており、意見や要望などあった場合そのノートに書くようにし、運営に反映させている。また定期的に親睦会も開き意見交換を行っている。	申し送り簿を活用し朝礼、勉強会、ミーティング時に勤務体制などの話し合いをもっている。管理者は職員から気軽に声をかけられやすい雰囲気作りに心がけ、また悩みがありそうな職員には個別面談を行い問題解決を図っている。	
12	0	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	1人1人の話をよく聞いてくださり、職場環境や条件の整備など応じてくださっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	0	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修はあるものの、法人外の研修に行く機会が少ない。法人外の研修に行ける機会をもっと増やせられたらと思う。働きながら向上していくことに重視している。		
14	0	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接施設の老人保健施設や、同町にある特別養護老人ホームの方々との交流はあり、よく意見交換など行っている。また行事などある時には、お互いに訪問も行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15	0	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と信頼関係が早く築けるよう、声かけを行い、本人の気持ち・思いに耳を傾け、安心して暮らせるよう支援している。		
16	0	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ゆっくりと家族の方と話をする機会をつくり、家族の方々の声に耳を傾け、思いを受けとめるよう関係作りに努めている。		
17	0	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族ともよく話しをし、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18	0	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者のペースに合わせ、できる範囲内で家事や畑仕事など手伝ってもらい、本人ができないことはさりげなく見守り、支援するように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	0	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の思い・家族の思いを十分に理解したうえで、本人の思いも家族のかたに伝え、職員だけでなく家族の方にも協力してもらうよう関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物や散髪、ドライブなど一人ひとりの利用者の方々が、昔行っていた場所に行くように支援している。	フェースシートや面談記録を活用し、利用者を支えてくれていた人間関係を把握するとともに、関係を継続できるような面会、電話の支援や、墓参りやなじみの店への買い物などの外出支援を行っている。	
21	0	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶の時間や散歩、家事作業や畑仕事などを通じ、利用者同士がお互いに関わりあったり、支えあったりできるような支援に努めている。		
22	0	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、本人や家族からの相談などがあった場合、必要に応じて支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	散歩やドライブ、居室での会話などを通じ本人の思いの把握に努めている。また、会話が困難な場合家族の方にも協力をもらい、本人の立場になって検討している。	利用開始前に本人や家族、関係者からどのように暮らしたいかを聞き、アセスメントシートなどに記載し、介護計画に活かしている。入居後は日々のかかわりの中で本人の意向をくみ取り、職員会議などの場で職員間の共有をはかっている。	
24	0	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用開始前・開始後も家族や居宅介護支援事業所などから情報提供してもらい、把握に努めている。		
25	0	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のできること・苦手なことの把握に努め、一人ひとりのリズムに合わせた支援に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・職員とも話し合い意見を反映させた介護計画作成に努めている。	本人、家族、主治医も参加した担当者会議を開き話し合いながら計画を作成している。また、ミーティングで介護支援専門員と職員が話し合い、介護計画を作成することで、職員はすべての利用者の介護計画を意識して日常の介護を行っているが、ケアに関する会議の記録が確認できなかった。	介護計画を職員全員で把握できるようケアに関する会議や話し合いを密にし、記録として保管されることが望まれる。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	0	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの個別記録を作成し毎日記入している。また、いつでも見れる場所に置き、情報を共有している。		
28	0	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のその時々生まれるニーズに関しては、なるべくその日のうちに対応するようにしているが、その日のうちに対応が困難な場合は後日必ず対応するようにしている。		
29	0	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物や散歩、ドライブなどを通じ、一人ひとりにあった場所や支援について努力している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望のかかりつけ医にて、月2回の往診を行っている。また、緊急時にもすぐ来てもらえるよう関係作りを行っている。	かかりつけ医は入居前からかかっている医療機関に本人や家族の意向を大切に決めていく。往診時も適切な治療が受けられるように経過記録日誌等で情報提供に努めており、良い関係がつけられている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	0	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の方々に変化が見られた場合、隣接施設の看護職員やかかりつけ医に相談できるよう関係を作っている。		
32	0	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院関係者との情報交換を十分に行い、利用者や家族が安心できるよう支援行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の方々とは今後のこともふまえて、事業所でできることを十分に説明し、その上で本人・家族の方々の要望を確認し支援している。	重度化や看取りについて、過去に実績もあり、かかりつけ医と相談し職員の共有も図っている。関連施設と24時間体制で連携がとられ本人・家族の安心につながっている。だが、対応する指針が書面として確認できなかった。	職員、家族、主治医と共有できるよう方針を書面にすることを提案し管理者は検討の必要性を感じていたため前向きに取り組みたいとの意向である。
34	0	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避難訓練時に消防立会いのもと、救急訓練を行ったり職員会議時に話し合ったりして、実践力をつける努力をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防立会いのもと避難訓練を定期的に行っている。また災害時の協力要請は地域の責任者の方にお問い合わせはあるも、まだ地域の方々と一緒に避難訓練は行えていない。	避難訓練や消火訓練を行うとともに、マニュアルを作成し研修にも取り組んでいる。非常災害時の必要な備品の管理も行われている。ただし、地域住民の参加に対する声かけや夜間体制での訓練が確認できなかった。	今後、地域住民の参加に対する声かけや夜間体制での訓練を行うことを運営推進会議で提案し前向きに取り組む意向である。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとりが、声かけには十分注意し、一人ひとりの利用者の方々にあった声かけ・支援に努めている。	食堂に方針が掲示され、利用者への言葉かけは十分注意され自己決定しやすいよう配慮されている。また、記録等はカーテンをかぶせて保管し外来者の目につかないように配慮している。	
37	0	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を引き出す声かけに心がけ、一人ひとりの思いを尊重している。		
38	0	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者の方々のペースにあわせ、本人の希望を優先して支援行っている。		
39	0	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人の好みの洋服の買い物や、が外出や行事などへの参加時の服選びなど一人ひとりに決めてもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を利用者の方々と一緒にするのはもちろんのこと、準備や後片付けも利用者の方々と一緒に行っている。また、自然と利用者の方々も役割ができています。	テレビや料理本を見ながら食事の希望や食欲を引き出す工夫をしたり、自家菜園の旬の食材を利用し、配膳、下膳を一緒に行い、お箸やコップを入居者本人で管理することで食への興味を持ってもらうようにしている。食事は職員も一緒に会話を楽しみながらとられている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	0	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	栄養バランスは週に1度、隣接施設の栄 養士の方に確認してもらっている。食 事摂取量はチェック表があるものの、 水分摂取量に関してはまだ作れていな い。		
42	0	○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の 力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず口腔ケアを促し、介助が必 要な方は、できるところはしてもら い、できないところはさりげなく介助 行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣 を活かして、トイレでの排泄や排泄の自 立に向けた支援を行っている	なるべくオムツ使用を避け、トイレで の排泄を心がけ、夜間は必要な利用者 の方には、居室にポータブルトイレを 設置し誘導行っている。	本人の生活リズムを把握し、なるべく トイレで排泄できるよう配慮してい る。紙パンツやパット等の使用を本人 重視で検討し、過去に排泄が自立した 利用者の実績もある。	
44	0	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、個々 に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便状態を確認し、便秘 気味の方には水分の量を増やしたり、 便通の良い食べ物を出すようにしてい る。便秘が長引く場合はかかりつけ医 に相談し指示を仰いでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴はいつでも入れるようにしてあり、曜日や時間指定などは決めていない。	体調や希望により入浴やシャワーなどに対応している。入浴を嫌われる方にはできるだけ声を工夫したり、清拭や部分浴などの対応をしたり、気持ちよく入浴を楽しめるよう支援している。	
46	0	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりのリズムに合わせて、お昼の休息や、散歩がてらの運動など取り入れている。		
47	0	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの利用者の方々が服薬している薬を把握し、症状に変化があった場合、医師に報告している。		
48	0	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの利用者に合わせ、畑仕事や買い物や家事作業など一緒に行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ドライブや散歩、買い物などほとんど毎日行っており、時には利用者全員で外出も行っている。また、利用者の希望によっては家族の方にも協力をもって支援している。	入居者のかわいがっている犬のいる庭や自家菜園では天気の良い日は外気浴が行われている。また、本人の希望に応じて散髪、買い物、ドライブ、墓参りなど戸外に出かけられるように配慮し、気分転換やストレス発散、五感刺激の機会として外出を支援をしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	0	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者によっては、本人が管理している方もおられ、本人の希望するものを一緒に買い物に行ったり、利用者の方によっては職員にお願いし、買われたりしている。		
51	0	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	公衆電話を置いてあり、利用者の方々の希望によっては、電話の支援をしたり、利用者の方によっては手紙を出したりしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方々一人ひとりが安心して混乱なく過ごせるようにしている。また、家庭的な雰囲気が出せるよう、花などを置き、あたたかい雰囲気作りに努めている。	愛犬のいる庭は緑豊かで季節の花々が植えられとても気持ちよく、共有空間には手作りのひょうたんや花が飾られ、食堂は思い思いにくつろぐことができるスペースが確保されている。食堂は日差しが差し込み明るく、心やすらぐ家庭的な雰囲気がたまたよい、居心地よい空間となっている。	
53	0	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはソファやイスを置いてあり、気のあった利用者同士で会話を楽しんだり、一人の時間を楽しんだりされておられる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人や家族の方々に十分説明を行い、家具や食器など本人の使い慣れたものを使用していただくようにしている。しかし、利用者の方によっては、何もなかったもおられ、今後も家族との関係作りが必要と思われる。	家族とも相談し、一人ひとりの希望や状況に応じてカーペット、家具、タンス、椅子、冷蔵庫、ラジオ、写真、ぬいぐるみなど馴染みのある物を持ち込み、居心地のよい空間となっている。	
55	0	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の方々一人ひとりの能力を把握し、一人ひとりになるべく自立した生活が送れるよう、手すりや、トイレや居室の場所など名前を書いたりしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
		○	3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない